

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
28-57	高等学校	公民	倫理	1～3
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
7 実教	倫理 312	高校倫理 新訂版		

1. 編修の基本方針

○2条の目標を達成するため、次の通り編修した。

- ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培う観点から、できるだけ様々な先哲の思想や現代社会の諸問題を取り上げるようにするとともに、生徒が興味・関心を失わずに学習できるよう、思想に関わる歴史的、社会的な背景にも触れるようにした。また、各編・各節の導入部には、絵画や写真など視覚に訴える教材を大きく配置した（第1号）。
- ・自主及び自律の精神を養う観点から、生徒が様々な倫理的課題を主体的に考察できるような特別ページや課題例（「Study」）を随所に設けた（第2号）。
- ・正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う観点から、生徒が人間としての在り方生き方について思索を深められるように、テーマ学習のページを設けた（第3号）。
- ・生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養う観点から、生命尊重の思想を唱えた思想家や、生命・環境倫理について詳述した（第4号）。
- ・伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養う観点から、日本思想史を詳述するとともに、文化財や自然の写真を多数取り上げた（第5号）。

2. 対照表

図書構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第1編1章	・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、人間の特質について記述した（第1号）。	p.6～8
	・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培う観点から、青年期の意義と自己形成の課題について記述した（第1号）。	p.9～19
	・男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずる態度を養う観点から、友情と恋愛の意義について記述した（第3号）。	p.11

	<ul style="list-style-type: none"> ・職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う観点から、現代青年の課題と働くことの意義について記述した（第2号、第3号）。 ・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、生きがいや生きる意味を考察した神谷美恵子やフランクルの思想について記述した（第2号）。 	<p>p. 17～18</p> <p>p. 18～19</p>
第1編2章	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培う観点から、源流思想について詳述した（第1号）。 ・正義と責任、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う観点から、アリストテレスの正義と友愛思想について記述した（第3号）。 ・自他の敬愛を重んずる態度を養う観点から、イエスの愛、イスラームの平等と同胞愛、孔子の仁愛の教えについて記述した（第3号）。 ・自他の敬愛を重んずる態度を養うとともに、生命を尊ぶ態度を養う観点から、慈悲や大乘仏教の教えについて記述した（第3号、第4号）。 ・自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う態度や、生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養う観点から、宗教の死生観を取り上げたページにおいて、宗教の愛の教えに基づいた福祉事業や環境保全の活動について記述した（第3号、第4号）。 ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操を培う観点から、人生における芸術の意義について記述した（第1号）。 ・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、ゴッホの生涯と創作活動について記述した（第2号）。 	<p>p. 20～71</p> <p>p. 32～33</p> <p>p. 40～41, 48, 63～64</p> <p>p. 54～56</p> <p>p. 59</p> <p>p. 72～73</p> <p>p. 72～73</p>
第1編3章	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養う観点から、日本思想史について詳述した（第1号、第5号）。 ・自然を大切にする態度を養うとともに、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養う観点から、日本の風土の特徴と日本人の気質の関わりについて記述した（第4号、第5号）。 ・自然を大切にする態度を養う観点から、古代の日本人の自然のとらえ方について記述した（第4号）。 ・伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養う観点から、仏教と日本文化の関わりについて記述した（第5号）。 	<p>p. 74～121</p> <p>p. 74～75</p> <p>p. 76</p> <p>p. 90～91</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う観点から、中江藤樹、伊藤仁斎、荻生徂徠や本居宣長、二宮尊徳の思想について記述した（第3号）。 ・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う観点から、天賦人權思想や自由民権思想について記述した（第2号、第3号）。 ・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、自我の確立をめざした文学者の思想や白樺派の運動について記述した（第2号）。 ・個人の価値を尊重するとともに、正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずる態度を養う観点から、全国水平社や女性解放のあゆみについて記述した（第2号、第3号）。 ・生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養う観点から、南方熊楠や宮沢賢治の思想について記述した（第4号）。 ・自主及び自律の精神を養うとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う観点から、丸山眞男の思想について記述した（第2号、第3号）。 ・自主及び自律の精神を養うとともに、自他の敬愛を重んずる態度を養う観点から、先哲の思想を学んだ上で、心のとらえ方について自ら考えることができるよう、テーマ学習の頁を設けた（第2号、第3号）。 ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うとともに、自主及び自律の精神を養う観点から、先哲の思想を学んだ上で、人間存在のとらえ方について自ら考えることができるよう、テーマ学習の頁を設けた（第1号、第2号）。 ・自主及び自律の精神を養うとともに、正義と責任、自他の敬愛を重んずる態度を養う観点から、先哲の思想を学んだ上で、正義のとらえ方について自ら考えることができるよう、テーマ学習の頁を設けた（第2号、第3号）。 ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、自主及び自律の精神を養う観点から、時間のとらえ方について自ら考えることができるよう、テーマ学習の頁を設けた（第1号、第2号）。 	<p>p. 94～99, 101</p> <p>p. 105～108</p> <p>p. 113～115</p> <p>p. 115</p> <p>p. 118～119</p> <p>p. 119</p> <p>p. 122</p> <p>p. 123</p> <p>p. 124</p> <p>p. 125</p>
第2編1章	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培う観点から、西洋思想について詳述した（第1号）。 ・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、人文主義やピコ=デラ=ミランドラ、ルターやカルヴァン、モンテーニュやパスカルの思想について記述した（第2号）。 	<p>p. 128～183</p> <p>p. 128～135</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を 培い、自主及び自律の精神を養う観点から、自然権思 想やカントの意志の自律、ヘーゲルの自己外化の思想 について記述した（第2号）。 ・正義と責任、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、 公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、 その発展に寄与する態度を養う観点から、社会契約説 やカントの人格、ヘーゲルの人倫の思想について記述 した（第3号）。 ・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を 培い、自主及び自律の精神を養うとともに、正義と責 任、自他の敬愛と協力を重んずる態度を養う観点か ら、ベンサムやミル、マルクスや実存主義の思想につ いて記述した（第2号、第3号）。 ・正義と責任、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、 公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、 その発展に寄与する態度を養う観点から、社会の進歩 を唱えた思想やサルトル、ハーバーマスの思想につい て記述した（第3号）。 ・男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずる態度を養う 観点から、ボーヴォワールの思想について記述した （第3号）。 ・生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する 態度を養う観点から、シュヴァイツァーやガンディー の思想について記述した（第4号）。 ・正義と責任、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、 公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、 その発展に寄与する態度を養う観点から、ロールズや セン、アーレントや共同体主義の思想について記述し た（第3号）。 ・自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に 基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄 与する態度を養う観点から、社会参加の意義とマザー＝ テレサの活動について記述した（第3号）。 ・自主及び自律の精神を養うとともに、正義と責任、自 他の敬愛を重んずる態度を養う観点から、先哲の思想 を学んだ上で、幸福のとらえ方について自ら考えるこ とができるよう、テーマ学習の頁を設けた（第2号、 第3号）。 ・自主及び自律の精神を養うとともに、自他の敬愛を重 んずる態度を養う観点から、先哲の思想を学んだ上 で、他者のとらえ方について自ら考えることができる よう、テーマ学習の頁を設けた（第2号、第3号）。 ・自主及び自律の精神を養う態度や、正義と責任、自他 の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づ き、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与す る態度を養う観点から、先哲の思想を学んだ上で、自 由と平等の調整について自ら考えることができるよ う、テーマ学習の頁を設けた（第2号、第3号）。 ・個人の価値を尊重して、自主及び自律の精神を養うと ともに、生命を尊ぶ態度を養う観点から、先哲の思想 を学んだ上で、尊厳のとらえ方について自ら考えるこ とができるよう、テーマ学習の頁を設けた（第2号、 第4号）。 	<p>p. 142, 144, 149～151</p> <p>p. 142～144, 150, 152～153</p> <p>p. 154～157, 160～169</p> <p>p. 158～159, 168～169, 174～175</p> <p>p. 169</p> <p>p. 178～179</p> <p>p. 180～181</p> <p>p. 181</p> <p>p. 184</p> <p>p. 185</p> <p>p. 186</p> <p>p. 187</p>
--	---	--

第2編2章	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培う観点から、現代の諸課題と倫理について詳述した（第1号）。 ・正義と責任を重んずるとともに、生命を尊ぶ態度を養う観点から、生殖技術による生命への介入について、子どもの福祉や人間の尊厳を重視する観点からの議論を取り上げたほか、個人の自由と社会の正義をめぐる問題について記述した（第3号、第4号）。 ・正義と責任、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、生命を尊ぶ態度を養う観点から、臓器移植の現状と課題について記述した（第3号、第4号）。 ・自主及び自律の精神を養うとともに、生命を尊ぶ態度を養う観点から、臓器移植や生殖医療をめぐる自己決定権の問題について、自ら考えることができるようなコラムを設けた（第2号、第4号）。 ・生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養う観点から、地球環境問題の基礎的な内容や解決に向けた国際的な取り組み、環境倫理の思想について記述した（第4号）。 ・男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う観点から、現代における家族の課題や解決に向けた取り組みについて記述した（第3号）。 ・自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う観点から、共生社会の実現に向けた地域社会の役割について記述した（第3号）。 ・生活との関連を重視する態度を養うとともに、正義と責任を重んずる態度を養う観点から、情報社会の課題と解決に向けた取り組み、情報社会の倫理について記述した（第2号、第3号）。 ・他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う観点から、多文化主義の思想や多文化共生のための試みについて記述した（第5号）。 ・他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う観点から、平和の思想や人類の福祉のための具体的な取り組みについて記述した（第5号）。 ・自主及び自律の精神を養う観点から、第2編2章各節に、生徒が主体的に考察できるような問いかけを設けた（第2号）。 	<p>p. 190～211</p> <p>p. 190～192</p> <p>p. 192～193</p> <p>p. 194</p> <p>p. 196～199</p> <p>p. 200～202</p> <p>p. 203</p> <p>p. 204～206</p> <p>p. 207～209</p> <p>p. 210～211</p> <p>p. 195, 199, 202, 203, 206, 209, 210</p>
-------	--	---

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- ・学校教育法第五十一条一項（国家及び社会の形成者として必要な資質を養うこと）に即して、テーマ学習の頁についても問いかけを設けたことで、生徒が種々の課題に対して主体的に考察できるように配慮した。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
28-57	高等学校	公民	倫理	1～3
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
7 実教	倫理 312	高校倫理 新訂版		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

学校の多様な実態に照らし、生徒が自己形成と人間としての在り方生き方について思索を深めるにあたって、興味・関心をもって学習できるように、以下の点について配慮した。

- 1) 教師がさまざまな取り扱いを工夫できるよう、教材の配列・順序（編・章・節）は学習指導要領の構成にしたがった。
- 2) 「倫理思想」の叙述にあたっては、その思想に関わる歴史的、社会的な背景にも触れるように努めて、生徒の興味・関心を失わせないようにした。
- 3) 生徒が課題意識をもって読み進めるための工夫として、各単元の冒頭に問いかけ文を設けた。
- 4) 見返しには、倫理を学ぶ上での基本的な用語をまとめた「倫理の基礎知識」を設け、生徒がスムーズに読み進めることができるよう工夫した。また本文では、簡潔・平易な表現に努め、専門用語以外の漢字にもふりがなを多用し、文章を読解しやすくした。
- 5) 脚注は、本文の記述を補いその理解の助けになるとともに、より思索を深めるための手がかりとなるような記述とするように心がけた。また、学習上特に重要な用語は、特別な注（「P o i n t」）を設け、その要点を整理した。
- 6) 各編・各節の導入部には、絵画や写真など視覚に訴える教材を大きく配置し、生徒の興味・関心を喚起し、本文と相補って学習内容が理解しやすいようにした。
- 7) 絵画や写真を有機的に配置して、宗教・思想の特長・流れを図解した特集ページ（「世界宗教の姿」「日本の宗教・思想の展開」「西洋近現代思想の系譜」）を設け、視覚的に知識の整理ができるようにした。
- 8) 学習内容をふまえた上で、生徒が人間としての在り方生き方についてさらに思索を深められるように、テーマ学習のページを設けた。
- 9) 生徒が学んだ知識を活用して自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し成果などを表現するために必要な思考・判断・表現力を養うため、テーマ学習や第2編2章各節に、課題例（「S t u d y」）を設けた。
- 10) 上記課題例に取り組むにあたって、その成果を表現するための技能を養うことができるように、特別ページ（「小論文の書き方」）を設けた。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
第1編 青年期の課題と人間の自覚			36
第1章 青年期の課題と自己形成	(1)現代に生きる自己の課題	p. 6～19	4
第2章 人間としての自覚	(2)人間としての在り方生き方 …ア	p. 20～73	17
第3章 日本人としての自覚	…イ	p. 74～121	15
第2編 現代と倫理			24
第1章 現代に生きる人間の倫理	(3)現代と倫理 …ア	p. 128～183	20
第2章 現代の諸課題と倫理	…イ	p. 190～211	4
		計	60